http://decfamily.p1.bindsite.jp/2016/

We 13R

No.041　16/06/10

監視社会のその後

来週からまた教育実習生がやってくる。体育祭の週にやって来た時は、主として授業の見学をしてもらったわけだが、今回の２週間は、いよいよ「実習」ということで、授業を担当してもらうことになる。日比谷の卒業生とはいっても実習生だから、どうしても授業が分かりにくくなったり、逆に丁寧過ぎてクドいと感じることが出てくるかも知れない。そういう時は、授業の後で遠慮なく感想を伝えよう。そういう感想こそが、彼ら・彼女らにとってもっとも参考になる意見なのだから。同時に、慣れていない実習生の授業を前提にして、しっかり予習・復習をすることも大切だ。実習生が困っていたら、助け船を出せるくらいに予習をしておこう。

＊

さて、実習生にちょうどよい形で授業のバトンタッチするために、今週はいろいろ調整期間的な感じである。13Rの古文で、形容詞・形容動詞の話から入るのも、実習生が新しい教材の冒頭からスタートできるようにするためである。

13Rではないが、現代文を担当しているクラスでは、次の教材（「ことばとは何か」）の冒頭から実習生に授業をしてもらうために、今週は参考教材を扱うことにした。鬼塚先生もテスト返却の際に配ってくださったと思うが、「ビッグデータを私」という新聞記事のコピーである。「デジタル社会」の参考ということで用意したのだが、あの文章はなかなか考えさせられるイイ文章なので、この際、ぜひ読んでみてほしい。

ちなみに、著者は慶応大学の先生である。ご存じの通り、慶応大学は小論文が必ず課されることになっている。おそらく、この著者の先生も小論文の採点をなさるはずである。そういう時、自分と同じような発想の文章に出会えば、高得点を……だろうか（笑）？

＊

あの記事では、「デジタル社会」が論じた「監視社会」の、その一歩先が論じられている。「デジタル社会」では、監視社会の特色はあらゆる情報が蓄積されることであり、その蓄積された情報に＜遡る＞監視が可能になったと指摘されていたが、その＜遡る＞監視が、今では「プロファイリング」として機能しており、それがさらに「バーチャルスラム」の形成や、「フィルターバブル」といった状況を生み出し、果ては民主主義にも影響を及ぼしかねない状況を招いている、というのがこの記事の筆者の主張である。繰り返すが、君たちはすでにここに述べられている現実を生きている、つまり、就職などの際、プロファイリングによって不採用となったり、排除され続けたりする可能性がある世の中を生きているのである。ぜひ読むことを勧めたい。

＊

授業では、記事を読んだ上で印象に残った一節を抜き出し、それに対する自分の考えを簡単にまとめるという、いわば小論文の基本のようなことをやってみた。日本の遅れた対策状況を指摘している部分を挙げて、自分にも関わること故心配だと述べた諸君もいれば、フィルターバブルがもたらす民主主義の危機に触れて、それを乗り越える方策を考えなければならないと論じた諸君もいた。どちらもこの記事のキモにあたる部分である。